

広島県内の技術を集結した酒米育種を開始

酒米の育種を平成24年度から10年計画で開始しました。生産・流通から清酒醸造までを包括する新品種の開発を、関係機関と共同して進めます。

酒米は本県の特産作物です。新たに独自品種を開発することで、更なる**酒米の生産・流通の増加と清酒の販売力強化**を図ります。

4つの育種目標

目標	具体的内容
① 多収	「八反錦1号」以上の多収(530kg/10a)
② 高温耐性	原料米の品質と利用率を向上
③ 心白	大きさ「小」～「中」で精米特性を向上
④ 軟質	「山田錦」よりも高い溶解性



持ち味を生かした作業分担

実施機関	実施内容		
	前期 (H24~27)	中期 (H28~30)	後期 (H31~33)
○ 県立総合技術研究所 農業技術センター ○ 農研機構 近畿中国四国農業研究センター	交配と 世代促進	栽培特性・ 玄米品質 による選抜	新品種候補の 栽培適性 の評価
○ 県立総合技術研究所 食品工業技術 センター	醸造適性から の新たな 選抜法の確立	醸造適性 による選抜	新品種候補の 醸造適性評価
○ JA全農ひろしま ○ 広島県穀物改良協会	新品種の 育種戦略 の策定	流通・ 市場性 による評価	産地での 栽培適性評価
○ 広島県酒造協同組合			実用規模での 醸造適性評価